

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>運営理念を作り個々の価値観を尊重し、日常生活の中で地域社会との交流を深められるよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>住み慣れた地域での行事には出来る限り参加するなど、基本理念にも組み込んでいる。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関、ソファ内に掲げている。 カンファレンス等で見直しをし、意見を出し合っている。</p>	<p>○</p> <p>利用者さんの趣味の継続に向けて変化していく。認識力、理解力の把握に努めるよう情報交換している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族会などには意見を出してもらい見直しもしている。 地域福祉の重要施策とし位置づける。</p>	<p>○</p> <p>家族会、誕生会、夏祭りなど参加してもらい、大切にしている。理念に添えるように支援している。</p>
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>行事への参加呼びかけ等行っている。案内状を発送など行っている。</p>	<p>○</p> <p>地域の行事などは参加させてもらいこちらの行事も参加してもらっている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地元のチャリティーバザーや、作品展などに参加、又は、そば、うどんづくりを見て試食する。ボランティア参加もしてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>行事等、興味のある人には全員参加してもらおうよう支援している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	カンファレンスの時に第三者評価を実施する意義を理解してもらえよう職員と会議をしている。
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	地域住民に浸透するよう努めている。
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	市、地域の協力が今以上に欲しい。今は地域住民の経済状況が非常に厳しくなっている。
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	委員会を立ち上げ、勉強会をしている。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	施設内委員会を立ち上げ、勉強会は毎月している。当施設においては虐待はない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申込時の説明、契約時に再度説明を行っている。書面にもしるしている。疑問点、理解できない点については随時質問にこたえている。	○	入念な説明は出来ている。家族さんから疑問点があれば、充分説明は行っている。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各フロアに意見ポスト設置している。また、面接時など口頭での意見、希望等も随時受けている。	○	利用者及び家族からの思い意見は随時聞ける体制をとっている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	介護計画報告書、お便り等で報告している。面会時に必ず現状報告している。変化あればその都度電話連絡し、家族の意見を仰いでいる。	○	各利用者につき月一日の報告書の送付及び緊急報告は随時電話にて行っている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員への苦情は事務所で受付するが外部の専門家三名で対応できるようにしている。 (行政書士、司法書士、社会保険労務士)	○	ボランティアで参加してもらっている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務カンファレンス、フロアリーダーカンファレンス等で話している。	○	職員の意見や提案を発語する時間が持てない。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入浴日は、問題行動の多いフロア等への移動、行事等はスタッフの数を増やしている。	○	タイムリーな移動を行っている。又、スタッフは快諾するよう指導している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>一度に大勢の移動はせずに、利用者への影響を及ぼさない程度に徐々に移動を行っている。</p>	○	<p>認知症者の特性の理解に努めるため管理者は随時職員に指導している。職員異動についても利用者との関係を考慮し、徐々に行うようにしている。管理者は職員が定着出来るような職場環境、職員の想いや考えを随時相談してもらえるように努めている。</p>
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の機会があればすべての職員に書面で目を通してもらい、参加希望者はその旨を伝え、運営者は出来るだけ参加してもらうよう勤務調整を行います。普通救命講習会、消防設備点検こう秀に取り組んでいる。</p>	○	<p>今後も介護に関する知識や実技等の教養を深めていけるように積極的な参加を促していきたい。</p>
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>三か月に一回、市においてグループホームの連絡協議会があり、職員1～2名が参加しており、活動における具体的な内容について話し合い、それを持ち帰り報告し合っている。</p>	○	<p>勤務状態に応じて食事会など、他施設とのコミュニケーションを図り、情報交換が出来るような環境を作りたい。今後、同業者と懇親会がもてれば是非持ちたいと考える。</p>
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>勤務状態により参加しにくいですが、気の合った者同士がそれぞれカラオケや食事に行くなどストレス解消に努めている。</p>	○	<p>職員一人一人がストレス解消を自分自身でケアにつとめていく。</p>
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修の受講の推進、個々の意見を聞く体制を取り、各々の仕事に対する思いを聞く機会を設けている。</p>	○	<p>研修については、各々の能力に応じた研修の受講を促し、受講できるように勤務調整をする。カンファレンスにおいて、個々の考えを聞く機会を設けている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>アセスメント、他施設よりの情報、家族からの情報等を参考に入所前面接を実施し本人の心情、心身の状況等を可能な限り聞き取り入所後の生活後の生活に反映されるように努めている。</p>	○	<p>入所前の面接において、触れられていない部分や家族から聞き出せない部分を新たに見出しどんなことでも話せる信頼関係を築いている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前面接において家族の思いや求めていることを必ず聞き施設の対処方法についても説明している。</p>	○	<p>入所時にご家族等のご理解が戴けるまで説明している。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>本人や家族の希望を伺い、納得できるような支援の方法を見出し、サービスの説明を行い対応している。</p>	○	<p>施設では対応可能なサービス、出来ることを見極め、対応できない場合の相談等や生活の中で必要とされること等、随時検討している。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所時、事前にカンファレンスを行い、本人と家族の希望、サービスの方法等を協議する。他利用者には入所時に紹介する。又、入所当初は入所前生活のリズムに出きる限り合わせ、本人のペースを尊重する。</p>	○	<p>サービスを利用する前に十分な説明をし、納得してもらった上で希望があればお試し入所も可能である。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護をしてあげるという考えをなくし、同じ目線に立ち、寄り添うことで話しやすく信頼関係を築けるよう努力している。</p>	○	<p>「介護させて戴いている。」という思いで仕事をしていると自然に学ぶことができてくると思う。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面接時に利用者への想いを聞いて共に話し合い、より良い介護、関わり方の基本とし家族と分かち合えるよう努めている。	○	家族との距離をおかないよう、出来るだけの面会をお願いします。利用者の不安が続いた場合、家族に訪問をお願いし、訪問困難な場合は電話で声を聞いてもらっている。
29	利用者との関係のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	施設での行事参加を家族にも代えかけし、共に楽しんで戴き親しみを深めていくようにしている。	○	面会に時などに、利用者の近況について話し、家族の希望、利用者との関係について話しを聞き、ケアプラン等これからの関わりに生かしている。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所するまでに必ず行っていた事（宗教的行事等）は継続して戴くよう支援している。当日の体調を考慮しながら家族と連絡をとっている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	趣味・特技や興味のあることなど個々の特性を把握し、利用者間に提供することで個々の関係が良好になるようにしている。	○	利用者間のコミュニケーションが困難な場合は職員が間に入り代弁したりしてスムーズなコミュニケーションがとれるように努めている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後の利用者の状態は常に気にかけており、家族からも連絡をうけている。	○	他施設に移られた時は家族の許可を得て、面会にも行かせてもらっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報収集や利用者との話の中で思いや希望を取り入れようとしている意向が聞かれない場合はその時々を察し少しでも近づけるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の思い、意向を尊重し積極的に取り組んでいる。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族の面接時に生活歴やこれまでの暮らしぶりを聞く。 利用者からも積極的に話を聞き、職員間で共有し、把握している。</p>	<p>○</p> <p>好きな事、興味のある事など、利用者との話の中から引出し、個々により良い生活を送れるよう支援している。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>日課表、活動記録をもとに一人一人の生活ぶりを把握している。職員間での情報交換、申し送り等も密にしている。情報確認表を記録している。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者が家族の思いや希望を基本とし、関係者、本人、家族との話し合いにより、課題に対してのケアの方法等を検討し決定、介護計画を作成している。</p>	<p>○</p> <p>利用者に希望、要望があれば早急に検討し、出来るだけ叶えられるようにしている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化に即して、見直し、検討を行いケアプランの変更、作成をしている。</p>	<p>○</p> <p>月一回のケアカンファレンスを行っている。状態変化時はその都度、話し合いをしケアプランの変更をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子、会話、ケア時の変化など記録し情報を共有し施設での生活とケアに役立てている。</p>	○	<p>些細な事柄も記録にありのまま記載し利用者さんの発せられた言葉通りに記載する。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人の出来る事はしてもらい、できるであろう事も声掛け、誘導、見守りなどにより行動してもらっている。</p>	○	<p>地域活動、年間恒例行事には積極的に参加し、社会参加していきたい。 気分転換になり喜ばれている。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員、市相談員（オンブズマン）2名、毎月訪問され話し相手をして下さる小学生のボランティアがあり、ゲーム、歌など楽しませて下さる。</p>	○	<p>市内イベントの情報（パンフレット）を得て、音楽会など参加したい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>病院他施設サービス事業者などとコミュニケーションを取り合っている。</p>	○	<p>体験入所、体験利用等実施。 他施設見学、他施設より見学、受入れ。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>地域包括支援センターとは毎月交流多くあり、事業者会議、認定更新、緊急対応依頼など協働している。</p>	○	<p>地域の介護度のない独居老人や老々介護になっている高齢者の方々に地域包括支援センターを通じて支援していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は家族同行必須にて対応、主治医との関係良好、常時相談協力ももらっている。往診（協力医）	○	協力医院との良好な（協力的）関係、職員で判断する事なく必ず相談、指示仰ぐ
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医院が認知症専門医である。受診、相談、治療受けている。	○	受診時家族に連絡し結果報告は必ずしている。必要であれば家族同伴。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	施設内、看護師と相談しながら日常的管理を実施。	○	その都度相談できる体制が整っている。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時から医療機関と密に情報交換し、状態に応じ安全なケア方法を話し合い早期退院に向けて取り組んでいる。	○	入院時は施設内生活状態やA・D・L情報提供している。家族、病院側から現状報告を受け施設内生活受入れ準備し受け入れ。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日々の状態少しの変化でも家族、かかりつけ医に報告し早めの対応をしている。その人にあったケアを方針を共有している。	○	家族の希望を第一にしている。事前に家族、かかりつけ医に容態急変、対応困難時の相談をしている。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できること、できないことを明確にしかかりつけ医と協力しながら支援に取り組んでいる。早くから変化に備えた検討を全ての利用者と充分にできてない直ぐ忘れてしまい本心が分からない。	○	利用者によっては認知症の為、本音が変化するので家族さんの考えも聞いている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移住は本人にとってやむを得ない場合以外は極力避けている。移住の際は家族ケア、関係者と充分話し合い安心できる環境作りを考えている。	○	家族、関係者からの情報収集しダメージ軽減に努め適切なケアをしている。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライドに考慮。 特に排泄、入浴時のプライバシーの確保はしている。	○	プライドを傷つけない。個人情報には特に注意している。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者さんから希望、願望に傾聴しているが表情、反応なども注意深くして意思決定している。	○	常に受容の気持ちで向き合っているけれど、意思決定できない利用者に対しては納得できるようにゆっくりと話をしている。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしを支援し、危険以外は行動制限はしていない。不穏時は納得されるまで寄り添う。	○	食事時間以外の食物摂取は当人の想いに応じた対応し、夕方の予想時は訴えを傾聴し受容する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類は家族の協力を得ている。整容毎日、訪問理美容を受けている。意思表示不能の方は家族さんの対応をうけている。	○	服装の乱れは気付き次第整える。眼鏡など汚れ時拭く。爪切りなどこまめに行う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>月一回のバイクング。 利用者の誕生日があるといつもと違う食事メニューとケーキなどを食してもらう。</p>
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>外気浴はベランダで行っている。</p>
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>個々の特性の把握に努めながらプライバシー(人格)等に配慮したケアの努めている。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	<p>入浴中は楽しい会話をしてゆっくり入ってもらうように心掛けている。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	<p>季節の応じて暖房、冷房などを使用し本人希望で湯たんぼ等を使用している。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>個々の利用者の出来ることを見出し機能に応じ参加いただいている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほしい物を買ってもらい家族の協力で買ってきてもらったり、一緒に行って買い物をしてもらっている。	○	日用品等の購入に関しては家族と相談しながら対応している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出困難な利用者は車椅子で外気浴を行っている。	○	1対1での外出。 家族に依頼する等、各利用者が納得いくような対応を心掛けている。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	花見・遠足などを計画して行っている。施設内ではクリスマス会、敬老祝賀会などを行っている。	○	スタッフのボランティア、家族等の参加協力も得ながら行っている。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者によっては、携帯電話などを使用し、家族にメール等行っている。	○	家族と連絡したい時はステーションから電話の許可をもらってかけたり、友人に手紙を出す時は助言したりして手伝っている。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の協力を得て友人等の訪問をお願いしている。	○	居室は個室であるため、利用者に応じてテーブル、椅子を置いてゆっくり話せるよう工夫している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人権を守り、安全にケアする為、家族と話し合っ出て出きる限り拘束がないよう心掛けている。	○	常に利用者の行動を注意深く把握している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故防止のためやむを得ぬ状況であることを利用時家族には説明している。	○	施錠が当て理前の処遇ではないという事を再確認するためにも拘束1委員会を持ち、折々にミーティングを行っている。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在や様子を常に把握し夜勤者は時間を決めて巡回を行い安全に生活できるようにしている。	○	常に利用者の所在を確認、居室訪問、声かけを行う。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々の保管能力に応じてはさみなどを居室に置く場所を常時確認している。使用時にはスタッフと一緒にしようしている。	○	カンファレンスを行い、都度利用者の状態を確認しあいながら物品についても検討している。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が発生したときは即時に適切な対応し事故報告書を作成する。	○	個々の状態確認及びスタッフ同士の連携した申し送りで事故防止している。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時マニュアルを作成している。適切な対応方法の勉強会を行っている。	○	定期的な訓練を行っている。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防火訓練を行っている。昼夜問わず避難できるよう職員が周知している。	○	訓練時、消防署に来てもらっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては、家族と充分話し合っている。拘束や鍵掛けはせず、絶えず声かけ見守りをしている。特に転倒の防止に気をつけている。	○	利用者は、理解力、記憶力の低下の方が多い。見守り、声かけは勿論のこと、家族会に時にその状況をお話し、納得と理解を得ている。今後共に事故を未然に防ぐ努力をしている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の様子をよく把握し、変化や異常の発見時には速やかに報告し合い、早期に努めている。家族への連絡も速やかに行っている。	○	情報を共有し利用者にとって、何が必要か速やかに対応している。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の説明書を見て把握している。利用者に副作用がある時は医師に相談し指示に従っている。薬の服用時には本人に声かけし手渡しして飲むまで見守っている。	○	服用時、日時、名前等を確認して渡し、飲むまで見守り、水分補給等も進めている。(周知ノートへの記載を行い、誤飲や飲み忘れを防ぐ。)
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	十分な水分補給と体調に応じた運動を行っている。薬の服用は身体機能を衰えさせたりするので、便秘の原因を探りここにに応じた支援をしている。	○	水分補給や運動を心掛けている。コップでは飲みにくい方に対しては、ストローや吸飲みなど工夫している。出にくい方は腹圧マッサージを行い、腸を動かしている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	義歯の洗浄は自分で出来る人は、職員の見守りにて行ってもらっている。食後のうがいは毎日遂行してもらっている。自分が行うことが難しい利用者には口腔ケアの重要性を理解していただき職員が行っている。	○	個々に合った支援を行っている。義歯の形や破壊には十分注意している。声かけしながら嫌がらないように心掛けている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下で献立を作っている。水分摂取量を毎日チェックしている。食事時間、水分補給などは決まった時間に撮ってもらっている。	○	状態確認を作成し、食事や水分補給の記録を取ることで個々の状態把握につなげている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルの作成。勉強会の実施。感染症発生時必要物品を常備している。毎年インフルエンザ予防接種をしている。	○	勉強会の実施。スタッフ一人一人が感染予防の心がけをする。手洗い、うがい施行。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後、乾燥機にて消毒を行っている。新鮮な食材を使うために、二日に一度買い物に行っている。日付なども確認しながら調整している。	○	コップ、まな板、布巾等は夜勤者が毎日漂白や乾燥機を使用している。冷蔵庫チェックも重視している。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾るなど家庭的な雰囲気作りをし誰でも入りやすいようにしている。	○	玄関には四季折々の花を植えている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周辺が田園に囲まれている為、季節感を感じ取ってもらっている。菜園で季節に応じた野菜を作ることが出来、居心地を良くする為に様々な工夫している。	○	居室は各利用者の機能に応じた物品を置き、自由にさせていただいている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダにベンチを設置し、又はリビングにはソファや和室があり、入居者が一人、又は数人でも思い思いに過ごせるように椅子やテーブルも工夫し配置している。和室には座卓を置いており、利用者が気の合う方と宴がるようにしている。	○	リビングにもプライバシーを保つ空間を設け、自由に利用いただいている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室には今まで使用していた家具、衣類、食器などを持ち込んでもらい安心して居心地よく暮らしてもらえるようにしている。家族と過ごす時間も思い出の品を目にしなが話せる環境づくりを心掛けている。</p>	○	<p>たんすやベッド等、個々のニーズに合った物を使用。テレビやその他必要に応じて持ち込みを自由に行っている。</p>
<p>84</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>換気には特に気をつけている。空気清浄機を使用しているが出来るだけ自然の空気を取り入れるようにしている。温度調節は個々の利用者に合わせ職員がこまめにしている。</p>	○	<p>出勤者は必ず湿度調整を行い、利用者の体調に考慮している。利用者の体調に考慮している。利用者本人に体調確認、湿度等、声かけしながらしている。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりに合わせ支えの台や手すりを設置しており、場所が分からない場合は大きく表示したり安全性に配慮して分かりやすい物を置くようにしている。</p>	○	<p>常に身体機能の変化に注意し、家具等の配置を考えている。</p>
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>職員が個々に出来る事を把握しており自立に向けての支援をしている。居室の入り口付近には手作りの名札、トイレには目印になるものを職員と一緒に作ったものを使っている。</p>	○	<p>一人ひとりの居室に絵や折り紙をつけたネームプレートを掛けている。リビングのテーブルには、自分の場所が分かるように利用者の名前を貼っている。</p>
<p>87</p> <p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている</p>	<p>個々の部屋からベランダへ出ることが出来、季節を感じていただいている。屋上や施設周りは散歩の一つとして利用している。畑や田んぼ等付近の花などを見て楽しまれている。</p>	○	<p>屋上は夏祭りイベントに利用している。建物の外周は散歩コースの一つとして取り入れている。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 毎月の昼食バイキング、誕生日会など利用者の好みに合わせた食事を楽しんでもらっています。
 家族さんとの連絡はお手紙、電話などでコミュニケーションを取らせて戴いています。
 利用者さんの希望など細かくきかせて戴き、少しでも楽しみを持って戴けるような支援を心掛けています。
 家族さん来所時に利用者さんの声を聞いて戴き、思い又これからの支援への希望を聞かせて戴き、明るく楽しく暮らして戴けることを心掛けております。